

名張市グリーンエネルギービジョン（案）の変更・修正箇所（26.01.08）

ページ	変更箇所	変更理由
表紙	計画名称の変更	当初、「名張市グリーンエネルギービジョン」としていましたが、エネルギービジョンとして限定してしまうと、事業内容が太陽光発電に偏り、また計画内容・事業規模も小さく乏しい。人・地域・自然・省エネ・新エネ・低炭素・循環等これらがリンクし、低炭素型の都市（まち）づくりを推進していくための事業を展開していくことが、名張市型の「スマートシティ」の創造につながる。 このことから「スマートシティなばり」を目指すためのエネルギーに係る行動計画として『スマートシティなばりエネルギーアクションプラン』に名称変更しました。 （修正：鑑）
1	修正	計画名称の変更に伴い「はじめに」を修正 （修正）
4 （修正）	計画名称変更に伴う修正・差替えと法律名の追記	計画書名変更に伴う修正と当事業を推進することはCO₂削減を図ることでもあるため、国・県のエネルギーに関する導入方針に係る関係法に「地球温暖化対策の推進に関する法律」を追記し、ページを差替えします。 （修正・差替え：旧P 4）
16 （新規）	二酸化炭素排出量の現状値の追記	第3章「名張市の現状と課題」で現状値の一つの資料として、名張市域の二酸化炭素排出量の現状値「（環境省）地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定サイトの部門別CO₂排出量の現況推計値」）を追記しました。 （新規）ただし、この数値を基に、当該事業推進後における二酸化炭素排出量の点検・評価をすることが不可能なため、目標設定には使用することができません。
7～ 29 （修正）	基本方針と施策目標の修正	当初案では、一般的な基本方針としていたため、名張らしさ（地域資源、まちづくり・協働、低炭素・省エネルギー、循環等）を盛り込んだ基本方針に修正するとともに、それらを展開する施策目標に修正しました。 （修正：旧P 27）
30～ 37 （修正）	事業の組み換えとロードマップ等の追記	基本方針および施策目標に沿った施策展開に事業を組み換えし、それらの事業を推進していくためのロードマップを追記しました。（修正：旧P 29～34）

35 (新規)	事業の追加	環境教育関連事業として、東京商工会議所が主催する「環境社会検定試験」への受験を促し、エコプールの創出を図る取組を追記しました。 (新規)
36～ 37 (新規)	事業の追加	①バイオマスタウン構想に基づく「木質バイオマスの利用促進」について追記しました。 (新規) ②廃棄物の減量化や資源化は、CO ₂ 削減等、地球温暖化対策につながる重要な取組の一つです。廃棄物処理やリサイクル計画に合わせた新たなエネルギー源としての活用について研究していくことについて追記しました。 (新規)
38～ 40 (新規)	省エネルギー推進プランとロードマップの追記	重点的な取組として新エネルギーの導入拡大プラン（5事業）とクリーンエネルギー自動車（CEV）及び充電スタンドの普及促進について記載していましたが、創エネと同等の価値のある省エネルギーについての推進プラン（2事業）を追記しました。 併せて、これら事業のロードマップも追記しました。 (新規：旧P35～36)
41 修正	計画の進行管理の修正	計画の進行管理の概念図の削除し、簡略しました。 (修正：旧P37)
42～ 43 (新規)	新エネルギーの導入目標と効果の追記 (新規)	当プランでは、CO ₂ 削減等目標設定は困難なため、それに変わるものとして、新エネルギーの「導入目標」とそのことに伴う「効果」を追記しました。 事業を推進することによって生み出す総体的な効果 (新規)

その他：パブリックコメントは実施しない。

本計画は、「スマートシティなばり」を目指すためのエネルギー分野の事業実施計画としています。平成27年度に改訂する次期『総合計画』におけるエネルギー政策の方向性と整合を図り、当計画を見直すものとし、その時点でパブリックコメントを求めることとします。

スマートシティとは、

スマートタウン、スマートコミュニティとも呼ばれ環境負荷を抑えながら生活の質を高め、継続して成長を続けられる新しい街、都市の姿。環境負荷の低減のために街全体に太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの導入や電気自動車の普及を図ることが課題とされる。そのためにスマートグリッド（次世代送電網）での地域電気供給システムの導入やスマートメーターを各家庭に設置して効率的なエネルギー使用を図ることやビルなどにもBEMS（Building and Energy Management System）を導入し室内環境とエネルギー性能を最適化させることが検討されている。